



校長の目 ～西小日々通信～

令和4年10月3日（月）



土曜日は、正門前の花壇整備が行われました。学校運営協議会からのお声かけにより保護者並びに地域の皆様にとくさんご協力いただき、土を掘り起こし、ブロックや柵の設置作業が行われました。子供たちも何人か作業に加わってくれました。ありがとうございました。10月25日の花いっぱいコンクール審査会に向けて、土づくりや花植えを計画的に進めていく予定になっています。引き続きよろしくお願いいたします。



10月に入ると今年度も折り返し点を過ぎたこととなります。今日から6年生の卒業アルバムの撮影が始まりました。2時間目は、6年生全体写真の撮影です。ドローンを使って上空から撮影しました。カメラマンさんがドローンを操作すると、子供たちは大盛り上がりです。上空でホバリングしているドローンに向かって、みんなで手を振りました。

6年生が卒業するまであと半年。何をやるにも、「小学校生活最後の〇〇」になることでしょう。仲間との時間を大切にしつつ、中学校へ進学するための準備を進めていきます。



4年生は算数で概数の学習をしています。概数、つまり「およその数」のことですが、子供たちは概数の意味や四捨五入の手続きでつまづきがちです。子供たちにとっては、日常生活の中で数をおよそで表す経験が少ないこと、四捨五入に伴う表現が耳慣れないことで、この学習の定着に差が生じます。授業では、町の人口をおよそで表す場面から導入します。A町 21034人、B町 32756人、C町 38412人について、それぞれ「およそ何万人か」を考えます。迷うのは、B町とC町です。どちらも3万人台ですが、この二つの町をおよそ3万人とっていいかどうかです。一万の位だけみれば3万ですが、千の位をみると二つの町には差があります。子供たちの意見も分かります。解決方法として、数を数直線上に置き、3万に近いか、4万に近いかを判断します。また、注目する位によって概数にする意味があるかどうかを考えることも大切です。



四捨五入は、その処理を指示する表現がいくつかあって、これも子供たちを悩ませます。例えば、「四捨五入して、一万の位までの概数にしましょう。」、「四捨五入して上から二けたの概数にしましょう。」のように、問われ方によってどこを四捨五入すればいいのか混乱するのです。傾向としては、後者を不得意とする子が多いようです。